

# 新・再興感染症対策に関する研究

## 国を超えた地域協調体制の構築におけるシンガポールの役割と貢献

平成 18 年度入学

派遣先国：バングラデシュ人民共和国・シンガポール共和国・インドネシア共和国

吉川みな子

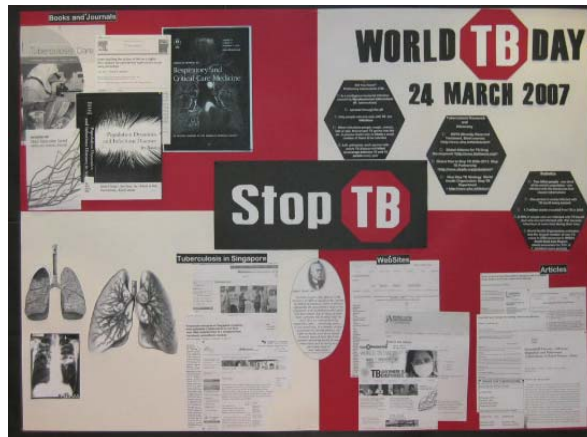
キーワード：シンガポール、新・再興感染症、政治指導力、地域協調、国際協力

### 対象とする問題の概要

新型肺炎などの新興感染症は短時間に国際社会の脅威となり、また結核などの再興感染症は発展途上国のみならず先進国でも問題化している。さらに感染症を悪用したバイオテロリズムの脅威は、明確な安全保障上の課題である。医療体制や公衆衛生基盤が弱く、大規模な人口を抱え豚や家禽類と人々が混在する東南アジア地域は、自然災害に頻繁に見舞われ感染症が拡大しやすい気候条件下に位置しており、感染症の予防と治療は切実な問題である。特に新興感染症に対処してゆく能力には国ごとに大きな開きがあり、国を超えての地域協調体制が有効である。そのための国際協力の強化が望まれる中で、医療水準、自然環境、政治指導力、経済力、文化、社会、歴史背景など、多様な東南アジア地域固有の制約や条件を解明する必要性が極めて高い。

### 研究目的

本研究は欧米先進諸国の医療技術発展や公衆衛生の歩みからの応用を探るのではなく、東南アジア地域内にその独自の解決法を見出そうとするものであり、シンガポールの取り組みに見られる感染症対策を分析するとともに同国の域内の貢献と役割を明らかにし、東南アジア地域協調体制構築と維持に有効な要素を明らかにしてゆくことを目的としている。感染症対策に不可欠な公衆衛生、保健政策、衛生行政には政治指導力が担う役割が極めて重要なことから、シンガポールの政策に焦点をあて、文献調査に加えて 1965 年から 80 年代までと 1990 年以降から今日までの 2 つの時間軸の分析と考察を主な目的としたフィールドワークを行い、地域への応用性を検討する。この研究を通じて、日本の ODA における重点分野の 1 つである保健医療のより効果的な支援実施に有益なあり方を提唱することを目指し、東南アジア地域における国際保健医療協力の分野に新たな視点を導入したい。



シンガポール国立大学医学図書館の正面入り口に掲げられた世界結核デーに関する展示

### フィールドワークから得られた知見について

2006年9月に実施した予備調査ではシンガポールに関する情報収集だけでなく、東南アジア地域との比較力を養う目的で、バングラデシュ人民共和国首都ダッカを訪れ、国際下痢感染疾患研究所の実験室とコレラ病院にて公衆衛生向上に取り組む医療現場を見学した。また、現地NGOが運営する貧困層の子供たちが集まる施設に赴いて奉仕活動を行い、先進国では予防も治療も確立している多くの感染症に日常的に脅かされている状態にある国では、医療体制向上以前に教育や産業育成も困難である現状を学んだ。



ダッカ市内国際下痢感染疾患研究所のコレラ病院内の入院患者と母親

2007年2-3月に実行した本調査においては、計画通り国立シンガポール大学の中央・医学図書館所蔵の文献、論文の閲覧をはじめ、独立直後の15年分の現地英字新聞から医療・保険政策に関する情報収集を実行した。また、当時公衆衛生医師として実際の環境衛生政策を担当し現在は保健省顧問を務めるDr. Goh Kee Taiからの聞き取り調査などを通じて、政策決定の迅速さと実行力が結果に大きな影響を与えることを確認した。国家環境庁、その他の関連機関からの聞き取り調査により、医療技術発展に果たす政治指導力の重要性を検証するのに役立った。加えて、シンガポールの感染症指定病院や私立病院の訪問を通じて、トラベルクリニックやメディカルツアリズムの概念や役割、そして予防対策・衛生教育の普及の観点から学ぶところが大きかった。



シンガポール国家環境庁本部内のデング熱監視・対策室にて感染症を媒介する蚊の発生状況と患者発生の情報管理方法を学び、疾病の予防と監視対策について聞き取り調査を実施

鳥インフルエンザ感染による死亡者を70名弱だし、市内で鶏を飼育することを禁止した首都ジャカルタでの1週間弱の短期フィールド調査では、保健所と私立クリニックの訪問を通して、公衆衛生と医療体制に関してシンガポールとの比較を試みた。1ヶ月ほど前に洪水に見舞われたことも起因すると思われるが、鳥インフルエンザ患者治療指定病院のすぐ近くでニワトリを発見するなど、政策立案とその実行の大きな乖離という実態を把握することができた。



主指導教員である岡本正明准教授のアレンジによるインドネシアジャカルタ市内の保健所聞き取り調査



インドネシアジャカルタ市内鳥インフルエンザ患者治療指定病院内に掲示されてあった教育普及用ポスター

## 今後の展開・反省点

博士予備論文では、新・再興感染症対策におけるシンガポール共和国の国を超えた地域協力の貢献とその役割について、政治指導力や政策実施に重点を置きながら分析し、急速な医療の近代化促進を成し遂げる原動力となった国家戦略の要因を解明するとともに、地域秩序安定に貢献しているシンガポールの地域内の位置づけも試みる。その後東南アジア地域への応用と展開を博士論文で扱い、最終的に新興感染症対策のための東南アジア地域の協調型体制構築・維持の課題を明らかにする計画である。しかし、本調査で行ったフィールドワークを通じて、現代グローバル社会を取り巻く感染症に関する政策研究には、国の枠組みを超える調査が欠かせないことを多数の専門家や研究者に指摘され、早期にシンガポールに加えて数カ国での調査を実行することと、国際機関からの視座を導入することが望ましいと認識するに至った。